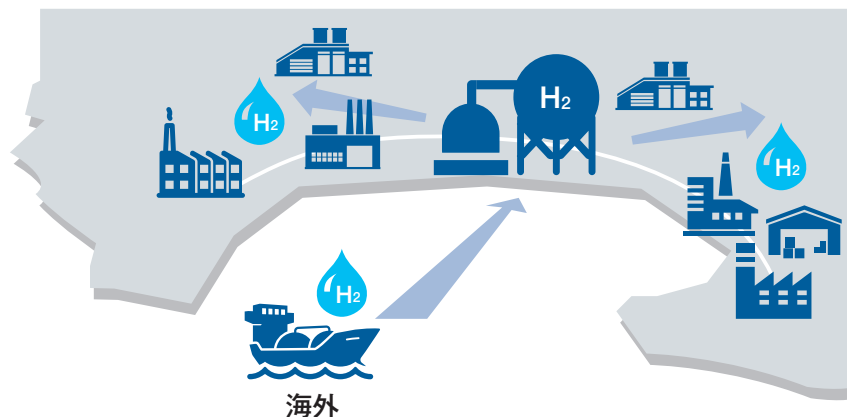


新領域への挑戦

水素

大規模水素サプライチェーンの構築・他産業展開を実現し、水素社会の実装・拡大を力強く牽引する（水素取扱全国シェア：3割）



強み・収益機会・戦略

- 水素と親和性のあるLNG事業を始めとするエネルギー事業を通じて培った燃料・熱・電気に関する知見および産業顧客の課題把握力
- 水素の大規模利用を見据え、海外で大量製造した水素を、大型船にて輸送し、国内で受入・貯蔵・利活用する大規模国際水素サプライチェーンの構築
- 貯蔵・輸送プロセスの効率化等の観点から国内地産地消や再生可能エネルギー資源の活用を検討

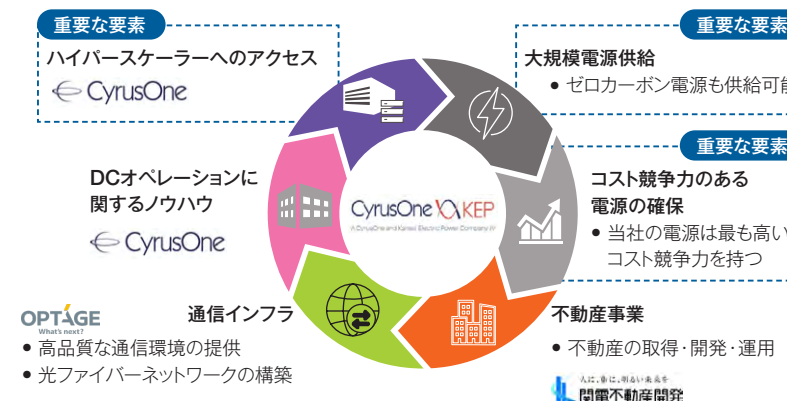
具体的な取組み

水素は、燃焼時にCO₂を排出しない特性に加え、再生可能エネルギー等を水素に変換して貯め、運ぶことができるため、発電・産業・モビリティといった多様な分野での活用が期待されています。水素の社会実装には安価で安定かつ大量の水素調達が不可欠であり、当社は、「つくる」「ためる・はこぶ」「つかう」といった一連のサプライチェーンの構築に向けて、海外での大規模な水素製造や輸送等に向けた検討を実施しています。また地元自治体や関連企業等と連携しながら、国内では輸送・利活用の調査や姫路第二発電所での水素混焼発電実証を実施しました。

今後とも、水素社会の実現を目指し、あらゆる可能性を追求しながら各種取組みを進めています。

ハイパースケールデータセンター

2035年までに総受電容量900MWを達成し、他の成長の柱に匹敵する規模へ成長させる



強み・収益機会・戦略

- CyrusOne社のハイパースケール向け顧客基盤と当社グループのエネルギー供給力、適地取得力を活かした、東京圏・大阪圏を中心とする後続案件の開発
- DX・AIの進展に伴うデータセンター需要の拡大を捉えた、国内DC事業の成長・収益拡大
- 資本効率向上に資するファイナンス手法の活用

具体的な取組み

京都府精華町において、第1号案件「関西電力サイラスワンOSK1」として、受電容量70MW（IT容量48MW）規模のハイパースケールデータセンターの建設を開始しており、2027年度の運転開始に向けて開発を進めています。

また、後続案件についても、現在の主な需要地である東京圏・大阪圏を中心に取り組んでいます。国内のハイパースケールデータセンター市場は高い成長率が見込まれており、AI活用の進展に伴って需要が高まるものと認識しています。お客さまや社会のニーズ・課題に向き合い、適切な立地条件や設備仕様等を見極めながら、新しい社会の重要インフラの構築に取り組んでいきます。